

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月27日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 21名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870600750
事業所名	グループホーム丹原の郷
(ユニット名)	南町
記入者(管理者)	
氏名	濱田 寿男
自己評価作成日	30年 7月 7日

<p>【事業所理念】 1.入居者一人ひとりが自立した生活を営む事が出来るよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供いたします。 2.一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え、安全で質の高いサービスが提供できるよう努めます。 3.主治医・協力病院と連携して、入居者が健康に生活出来るよう援助します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 丹原商店街の七夕祭りに七夕飾りを、ご利用者様、職員で作成し、出展し地域協働しているが、防災訓練等には参加出来ていない。火災避難訓練に合わせて、緊急連絡網を使い電話連絡訓練を行う。看取りにおける指針を作成し、職員に周知している。掲示板に「バラが咲きました」と写真を掲示し、地域の方に気軽にバラを見に来ていただいた。またグループ内の車両訪問販売の時、野菜やトマト、豆腐や手作りパンを近隣住民の方は楽しみにされている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 利用者と職員が玄関先で楽しそうに談笑する姿が印象的で、外部からの訪問者も優しく引き入れてくれる様子が伺えた。また、すれ違う職員の元気で爽やかな挨拶に清々しさを感じた。事業所での看取りを希望する家族も増えてきており、職員は事業所のできる限りの支援に努めている。勤続年数の長いベテラン職員と最近雇用された若い職員、男性と女性の比率バランスの良い職員配置となっており、好みの食事の提供、気に入った髪型や服装で本人らしさを保つほか、散歩など外出し気分転換を図るなど、利用者の要望に沿った支援に努めている。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の暮らしの中から希望を聞き、職員間で話合っている。	○	/	◎	日々の利用者との会話の中から、意向や希望を引き出せるように心がけており、利用者からの聞き取りが難しい場合は家族に協力を得てアセスメントシートにまとめている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	職員間で本人の視点に立って、意見を出し合うようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族や親戚の面会時に本人の好きな事や希望・意向を聞き出している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日常会話から、食べたいものや、やりたい事等生活記録に記載している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	日常から、思い込みが起こらないように、よく職員間で話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	家族や利用者様から、生活環境、暮らし方を聞いている。また、普段の会話の中からも情報収集に努めている。	/	/	◎	利用者の幼少期から現在に至るまで、年代ごとにまとめられた生活歴シートを作成し、職員間で情報を共有し、理解を深めている。また、新たに聞き取った情報など、半年毎にフェイスシートやアセスメントシートを更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	できる事、できない事シートを活用し、状態が変われば、その都度話し合っている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の生活の中での様子を記録し、赤線を引いて職員間で共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	生活環境や精神面、その場面に応じて職員間で話し合っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	一日の生活リズムを介護記録、生活記録に記入しており、必要に応じた対応はできている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	毎月、ユニット会で話し合っている。必要に応じてその日の出勤者でも話し合っている。	/	/	○	利用者が求めていることをユニット会で話し合い、本人視点での検討に努めている。日々の支援の中での気づきは、当日の出勤者間で話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	ユニット会で職員間で検討している。面会時には主介護者様にも適宜相談している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	ユニット会で意見やアイデアを職員間で出し合いながら検討している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	利用者様や家族の意向を踏まえて、職員間で話し合って介護計画を作成している。	/	/	/	ユニット会で話し合った内容や、利用者や家族からの意向を踏まえ、計画作成担当者が介護計画書にまとめている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	三か月に一回、モニタリングを行い、状態の変化に対応している。利用者様や家族の意向を踏まえた上で介護計画を作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	個々のファイルを用意し、身体状況、食事、水分量、排泄等の記録をし状況に応じている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	二カ月に一度、利用者様が安心して、地域での暮らしが続けられるように、家族の方や地域の方、民生委員の方々と意見交換する機会を設けている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアカンファレンスを三か月に一度見直している。必要に応じて見直しもやっている。	/	/	/	3か月毎に開催するケアカンファレンスで、介護計画の内容を把握、理解している。生活記録用紙を用いて、毎日の実践内容を記録し、職員間で状況を確認している。記録物は全体的に記録量が多く、細やかで、誰が見ても分かりやすいよう色分けして記載し、法人で使用する様式を改善して事業所オリジナルの様式を使用している。利用者の暮らしの様子や支援内容を具体的に記入し、職員の気づきや工夫等は申し送りノートに個別に記録されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	生活記録用紙に記録し、介護計画にそって日々の支援を行っている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	生活記録に記録し、特に注意したい事等は、赤線青線、緑線、で分類し職員に申し送っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	生活記録とは別に、申し送りノートを作成し、記入し職員間で情報共有している。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	三か月に一度見直しを行っている。状態変化がなければ、六か月後に作成している。	/	/	/	3か月毎に見直しを実施している。利用者ごとの担当職員が中心となって、毎日の実施状況を確認したり、モニタリングの評価を通じて、現状確認を行っている。利用者の状態に変化が生じた場合、家族と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	全体会やユニット会で毎月、一人ひとり、利用者の変化等について話し合っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人や家族の要望を取り入れながら、介護計画の見直しをしている。また、状態変化が生じた場合も家族と連携をして適宜見直ししている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ユニット会で話し合い、相談している。緊急時はその都度行っている。	/	/	/	毎月、事業所と併設のデイサービスセンター合同の職員会議や、各ユニットでの会議を設けている。会議で話し合われた内容は、会議録や申し送りノートで確認し、共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	副主任が中心になり、若い職員や新しい職員も意見が言いやすい雰囲気を作っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	当日勤務日の職員以外は、出席できるようにしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議で話し合った事を議事録や申し送りノートに記入し参加できなかった職員に伝えている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートを活用し、出勤時には必ず目を通すようにしている。大事な事は赤線を引いている。	/	/	/	家族との連絡事項や相談内容も含め、議事録や申し送りノートを活用し、確実な申し送りができるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノート、ユニット会ノート、生活記録等に記入し、面会時に家族と連絡・相談した事等も職員全員に伝わるようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	その日その日でやりたい事や思いは変化するので難しいが職員間で努力はしている。	/	/	/	本人の自己決定を尊重し、他の利用者とは少し離れ、一人の時間を過ごしたい利用者が廊下のソファでのんびり過ごしている場面もあり、その日の暮らし方を選択できるように努めている。利用者の好む話題の提供や声かけで、雰囲気盛り上げている様子が見られた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自分で選ぶ事ができる方は、声掛けをし自己決定していただいている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	思いや希望が、何でも話せる様な信頼関係が築けるように、寄り添っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	一人ひとりの様子を見ながら、職員中心にならないように、支援している。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	本人が好きなことや、できそうな事を勧めたり、声かけて雰囲気を作っている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	利用者様が何かしたい時やしてもらいたいと感じられる時は行動に移している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	常に利用者様は、人生の先輩だという事を忘れず敬いの心を持って、職員全員、意識して声掛けしている。	◎	◎	◎	利用者は人生の先輩である、という敬いの精神が職員に浸透しており、声かけや対応に意識している様子が感じられ、家族や地域住民からも評価が得られている。排泄や入浴など羞恥心に配慮する場面では、他者に悟られないようにさりげなく誘導を促すなど、配慮ある対応が心がけられている。居室は利用者専用の場所である理解があり、入退室にはノックや了承を得るなどのマナーが身に付いており、居室が空室になっている場合には戸を閉め、プライバシーに配慮した支援に努めていた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	目立たず、さりげない言葉かけを心掛けている。トイレの声掛け等は小声で言うように心掛けている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	トイレや入浴時は必ず戸は閉めている。また入浴時に女性職員に交代したりと配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	シーツ交換時や入室時は必ず、声掛けした後に入室するようにしている。訪室する時は必ずノックしている。いない時は戸は閉めている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	利用者様の個人情報は外では話さない。主介護者以外には個人情報は話さない。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事仕事や洗濯物たたみ等出来る事は協力してもらっている。また、してもらったり、教えてもらったりした場合は感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	興奮すると大きな声を出してしまう利用者や、物を放り投げて大きな音を立てたりする利用者もいるが、ベテラン職員が雰囲気を察知して早めに対応し、他利用者が不安を感じないように配慮していた。トラブルを未然に防ぎ、利用者同士が関わられるように、リビングでの配席に配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	人間は一人では生きていけない、助けあって支えあって生きていく事を理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	テーブルの座る位置等、利用者様が助け合って仲良く過ごせるように配慮している。孤立しがちな利用者様も、利用者様や職員が媒体になり、馴染めるよう配慮している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルになりそうな時や不安な時は、職員が必ず間に入り、話を聞き、トラブル解消、不安解消に努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム丹原の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	利用者様や家族から情報収集しているがあまり根ほり葉ほり聞くことが出来ない事もある。昔の事を話したがる利用者様や家族もいる。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	利用者様や家族から情報収集しているがあまり根ほり葉ほり聞くことが出来ない事もある。昔の事を話したがる利用者様や家族もいる。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	車に乗って外出した際は、行き先を伝えながら話をし思いだしてもらおうよう努力している。デイスーツを利用されている方に会いに行ったり、逆に話しに來られたりもしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会時、お部屋にて、談笑していただくようにしている。来て下さった事に感謝し、また来ていただけるよう優しい声掛けを心掛けている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	天気の良い日は必ず、外気浴・日光浴をしている。元気な方はホーム近くを散歩している。時々、外出して、花や鯉、かわいい動物を見に行ったり、外食をしに行ったりしている。	○	○	○	毎日、事業所建物の外へ出て、敷地内を散歩したり、毎月1～2回は外出を予定している。重度の利用者についても、体調に無理のない範囲で、他の利用者と一緒に外へ出掛ける機会を持ったり、ユニット内の陽当たりの良い場所で過ごす時間を作っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の方の家にお邪魔させていただいて、花を見せていただいている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	ユニット間で協力し、車椅子の方も天気の良い日は外気浴・日光浴にでている。	/	/	◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族と外出する方はいるが、地域の方と出掛ける事はない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	ユニット会で話し合ったり、日々の申し送りで伝えたり、職員で検討し、寄り添いケアを行っている。	/	/	/	利用者のできることを把握し、見守りながら散歩や歩行訓練を行ったり、風船を使用したりリハビリテーション等を実施し、月1～2回、法人の理学療法士の訪問があり、専門家によるアドバイスを受けている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	利用者様がゆったり・のんびり・穏やかに、持つてる力を発揮しながら暮らしていけるよう、個々にあったケアを心掛けている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来る事は極力自力でしていただいている。危ないと思った時は介助している。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	一人ひとりの、嗜好や趣味を把握し、楽しみを持って生活が出来るように支援している。	/	/	/	調理や洗濯などの家事的な作業の他、中庭で育てているトマトやスナックえんどうの世話を担当している利用者もおり、それぞれ興味のあることに取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	レベルが進んでも、個々に出来ることを、日常の会話やふれあいによって、職員が見つけだし、楽しみを持って生活していただいている。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の方の家に花を見せてもらいに行っている。役割出番はあまりない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	利用者様との会話や家族の会話の中からその人らしさを見いだす様になっている。	/	/	/	食事中、職員がさりげなく食べこぼしをカバーしている様子が見られ、利用者のプライドに配慮しながら支援を行っている。訪問理美容サービスを利用している利用者が多く、好みのスタイルに整えられるよう支援している。重度な状態であっても、アセスメントで利用者の好みを把握しており、本人らしさへの支援につなげている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	完全に希望通りとはいかないが、その人らしくいられるように支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	起床後には、一緒に鏡を見ながら髪型を整えたりその人らしくいられるように支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出に適した服装を、職員と一緒に談笑しながら相談している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	利用者様のプライドを大切に、声に出す事なく、さりげなくカバーしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	ホームにてボランティア(有償)の方に理容していただいている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	毎日、本人らしさが保てるように、髪型や服装を綺麗にしている。	/	/	◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	おいしく食べていただけるよう、食器や色取りにも配慮し、楽しい食事が出来る様にしている	/	/	/	利用者の重度化等により、一緒に食材の買い物に行くことは徐々に難しくなってきたが、盛り付け等できる作業を共に行っている。中庭で育てているトマトを収穫して食べる等、旬の新鮮な食材を取り入れるように努めている。献立は利用者の意見を聞きながら作成し、嗜好の好みやアレルギーの有無を入居時に把握している。自宅で使用していた食器類を持ち込んだり、誕生日に事業所からプレゼントされた食器を愛用する利用者もいて、自由に使用している。職員も利用者と同じ食卓を囲み、一緒に食べながら必要な介助を行い、食事のペース等の見守りを実施している。重度な状態であっても、調理の香りに誘われるようにリビングに集い、楽しみにしている様子が見られた。献立のバランスや偏りについて職員間で話し合いを行い、献立作りに反映している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物・献立・食材選びは職員がしている。野菜切りや下膳等はしていただいている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	自分のできる事をしていただく事で、利用者様の達成感に繋げている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	それぞれ、好きなもの、嫌いなもの、アレルギー等職員間で把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	春夏秋冬、旬のものを取り入れ、季節感を味わっていただき、利用者様も喜ばれている。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者様の状態や体調により、ミキサー食や刻み食にする事もあるが、献立によって、色とりどりの器や工夫して盛り付けたりしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	利用者様の使い慣れた茶わん、箸等を使用していただいている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者様と会話を楽しみながら、むせ込みのある人や食べこぼしのある人等にさりげなく、サポートしている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	リビングにて皆様と生活している事で、調理の匂いや音で、視覚・嗅覚に訴え、待ち遠しい素振りを見せられる利用者様もいる。	◎	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事量、栄養バランス、水分摂取量等しっかり確保出来ている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	一人ひとりに合った形態で援助し、時には、介助にて摂取していただいている。少ない方には、時間をおきながら、再々声掛けし、勧めている。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	職員間で話し合いはその都度行っている。利用者様の事を考えて献立を立てている。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手洗いの励行、まな板の消毒、食材の賞味期限の確認等に気をつけている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	利用者一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの介助を行っている。	/	/	/	口腔ケアのマニュアルを作成している。自分で歯磨きができる利用者には自分で行ってもらい、できない部分を介助している。歯磨き等の口腔ケアの実施後には、チェックを行って健康状態を把握している。義歯利用者は週2回の洗浄剤での洗浄を実施し、出血や義歯調整等の必要時には訪問歯科の受診支援を行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	虫歯、義歯の異常があれば、歯科受診している。舌や口腔内も口腔ケア時に確認している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診した時に義歯の洗浄の仕方についてやケアの仕方について教えていただいている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自力で出来る方は自分でしていただいている。週二回入れ歯洗浄剤にて洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	自力で出来る方は自分でしている。週二回入れ歯洗浄剤にて洗浄している。口腔ケア時に出血や炎症のチェックは職員がしている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	虫歯や義歯の不具合があれば歯科受診している。その際は家族に必ず、受診の承諾を得ている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレでの排泄を常に促している。出来る限り、オムツや紙パンツ類の使用をせず、排泄ができるように支援している。	/	/	/	排泄の状況を記録して排泄パターンを確認し、トイレでの自然な排泄ができるよう支援している。排便コントロール等、併設デイサービスの看護師にいつでも相談できる環境にある。状況に応じた適切な排泄用品の使用についてユニット会等で話し合い、アセスメントに反映している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	研修や勉強会等に参加、文献やネット等で勉強し理解を深める努力をしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を使用し、職員全員で排泄パターンを把握して支援できている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄パターンを把握している為、変化があれば、ユニット会で議題にあげ、検討・見直しを常に行っている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄チェック表で日々確認し、スタッフ間で情報を有して、その都度、看護師も交えて検討し対策を実施している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	個々のパターンに合わせて、必要な場合は声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるように支援している。	◎	必ずユニット会で検討し、家族様に連絡し相談している。理解できる利用者様はご自分で選択できるように支援している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	個々の状況に合わせて、適時使用している。紙パンツから布パンツになった人もいる。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	朝食時のヤクルトやバナナ等便通が良くなる食材を摂っている。食後のトイレ誘導、廊下歩行の運動にも取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	毎日入浴したい方は入っていただいている。湯船につかるのが好きな方も血圧に気を付けながらは入っている。	◎	/	◎	基本的には2日に一度のペースで入浴しているが、希望する利用者は毎日入浴が可能である。男性職員も多く、利用者の希望等に応じて、介助する職員が交代することもあり、柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	入浴されている時、昔話をしたり、談笑しながら入浴していただいている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	入浴動作の自立を促している。湯船には、一部介助で安全に入らせていただいている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴時間帯や声掛けをするタイミングを工夫することで入浴できている。必要に応じて、男女スタッフ交代し羞恥心に配慮している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に必ずバイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、入浴の可否を見極めている。入浴後も水分補給等に注意している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	介護記録や生活記録に、トイレ覚醒のパターン等を記入し職員全員が把握している。	/	/	/	夜眠れない利用者には無理強いすることなく、しばらく会話をしたり、精神的に落ち着けるよう支援に努めている。概ね利用者はよく眠れていると感じており、服薬などの医療面は医師に相談している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の活動量を増やしたり、居室での臥床時間を減らすように支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	ユニット会や日々の申し送りにて睡眠時間について報告・検討し職員が情報を共有しケアを実施している。必要に応じて往診日等にDrに相談している。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個別に居室を用意している為、休みたい時に、個々が好きな時間に休んでいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	年賀状や暑中見舞い等のはがきのやり取りを職員と共に文面を考えたりしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状や暑中見舞い等のはがきのやり取りを職員と共に文面を考えたりしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	こちらから電話する事はほとんどないが、かかってくれれば取次ぐ事もある。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書そのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	ご本人様に伝えたり、家族様に連絡したり、共有できるように支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	面会時等に情報を共有しながら、家族にも声掛けし協力してもらっている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクもあり家族もそれを望んでいる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクもあり家族もそれを望んでいる。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	外出行事は実施しているが、買い物等は実施していない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	外出行事は実施しているが、買い物等は実施していない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	家族様と相談し現在はお金は所持していない。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	家族様と相談し現在はお金を所持していない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	その都度本人様や家族様に相談しながら、本人様の意向に添った支援に努めている。	◎	/	○	働いている家族も多く、朝早い時間の来訪も自由にできるように面会時間を設定せず、24時間体制で気兼ねなく出入りできる環境を整備している。利用者や家族のニーズにはできるだけ沿えるよう努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関先や建物の周辺には春夏秋冬の季節の色取りどりの草花を育てたり、いつでも見に来ていただける様に開放している。	◎	◎	◎	玄関前の駐車場では地域住民も楽しみにしている豆腐の移動販売が行われ、販売日には賑やかな光景となる。広々とした事業所敷地には花々を育て、誰にも親しさが感じられる玄関回りを演出している。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	リビングの壁には季節の飾りを毎月飾っており、花を生けたり、廊下にはお誕生会や季節の行事の写真をはっている。居室には面会時のお孫さんやひ孫さんの写真を飾ったりしている。	○	◎	○	廊下に設置したソファや、畳の休憩スペースで、利用者が腰をかけてくつろぐ様子が見られた。利用者の生活風景が見られるよう写真を展示したり、利用者の作成した作品が飾られ、日常の様子を感じ取ることができる。今年で最期となった丹原七夕祭りへの作品準備に精を出しているところであった。環境委員が中心となり、客観的視点での環境整備に努め、カーペットやカーテンといった細部にまで配慮した清潔空間づくりに力を入れている。リビングでは利用者が好きな場所で自由に過ごしており、庭先に咲く花が生けられたりと、ほっと温か味ある空間となっていた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	環境委員を中心に細目に掃除をしている。またカーペット交換やカーテン交換も実施している。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	食材切り等出来る事を手伝ってもらったり、旬の野菜にふれたり、季節感のある食事メニュー作りやユニット内の装飾に努めている。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席の配置や利用者様の様子を見ながらその都度工夫し対応している。廊下等にソファを置き一人で静かに過ごせる場所を作っている。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	カーテンや引き戸を使用し、直接見えないようにプライバシーを守っている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅で使用していた家具を持ち込んでいただいたり家族からのものがきや写真を飾ったり・のんびり・穏やかに過ごしていただいている。	◎	/	○	使い慣れたたんす等の生活用品を自由に持ち込んでもらい、居心地よく利用してもらっている。居室は清潔で清掃が行き届き、すっきりとした印象が感じられる。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	リビングには日めくりカレンダーを作り利用者様がめくれるようにしている。自室には表札を作っている。トイレや浴室も表示している。	/	/	○	居室入口には表札があり、トイレや浴室などの位置表示を工夫し、利用者が戸惑うことがないよう配慮している。日めくりカレンダーを管理する利用者もいて、利用者の力を活かせる支援に努めている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	リビングには日めくりカレンダーを作り利用者様がめくれるようにしている。自室には表札を作っている。トイレや浴室も表示している。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	テーブルの上やカウンターに季節の花を生けたり壁には季節の貼り絵等を毎月飾っている。読書が好きな方は園芸や好みの本、新聞をいつでも読めるように置いている。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	職員全員、鍵をかける事の弊害を理解し、鍵をかけていない。	◎	◎	◎	法人全体で鍵をかけないケアに取り組んでおり、正しい理解に努め、施錠はされていない。2階フロアのユニットでは、階段からの転落事故にも十分留意しており、職員の行き届いた配慮により事故等もない。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	今、現在鍵はかけていない。施錠を望む家族も現在いない。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	日中はいつでも外へ出て散歩や庭に咲いた花等が見れるよう鍵はしていない。職員が目配り・気配りして注意している。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	生活歴やアセスメント等を行い、カルテに閉じており、いつでも確認できるようにしている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	普段と違った様子やバイタル測定結果の時は生活記録に残している。記録に青線を引きわかりやすくしている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	施設長と24時間連絡が取れる体制である。西条市民病院と連携病院であり、相談できる関係を築いている。日中は、デイの看護師に相談している。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族が希望するかかりつけ医や医療機関で受診できるように支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	月一回連携病院の往診を受けている。かかりつけ医を継続される場合、ご家族が受診介助できない場合は職員がお連れしている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	ご家族様が同行する場合は結果を聞き次に繋げている。職員が同行する場合は受診前後に、家族様に連絡報告している。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	ホームでの状態や介護状態について、介護要約サマリーを作成し情報提供している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院の主治医や看護師、相談員と連携を密にし情報交換に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	当ホームの連携病院であり、普段から、往診等で顔なじみであり連携は取れている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	月に三回当ホームに西条市民病院の主治医の往診があり、事前に看護師に相談している。往診時主治医にも相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談できる体制にある。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談できる体制にある。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	個人のカルテを作成し服用している薬の説明文を挟んで職員全員に周知している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服用時職員二人でダブルチェックしている。服薬後も飲み忘れがないか薬箱のチェックもしている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	朝・昼のバイタル測定や日常の様子観察をしている。いつもと様子が違うと連携病院の看護師に相談し受診する場合もある。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	日々の状態変化に注意している。変化があれば、家族主治医、看護師に相談する体制は整っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム丹原の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし相談検討し、その時その時で最善の方針を共有している。	/	/	/	利用者や家族の希望を把握し、重度化が進んでも事業所でできる限りの介護を行い、これまでに20名以上の利用者を看取ってきた。看取りの経験がある職員も多く、医療機関や家族とその時々々の状況において方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし相談検討し、その時その時で最善の方針を共有している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	管理者、職員交えて全体会等でどこまで支援ができるか話しあっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	出来ること、出来ない事については、その時その時で説明し理解していただいている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	利用者がより良く暮らせる為に連携病院の主治医等と連携してチームで支援していく体制にしている。ホームでの生活が難しいようであれば、連携して住み替えの提案も相談の上していく。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の意向は聞いている。利用料の支払いが苦しい家族は出来る限り期限考慮している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会等で看護師より、シーズン前に定期的に学んでいるが、肝炎、MRSAは学べてない。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	毎年勉強会で繰り返し手順を確認し、発生した時にすみやかに処理できるように、道具一式を揃えている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	市報、グループ内の市民病院の患者発生状況、インターネットを通じて最新情報を入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	インフルエンザ警報が出たり、流行している時は面会を控えてもらっている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時、外出時、外気浴時、は必ず手洗い、緑茶うがいをしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時等に日頃あったエピソード等をお伝えしている。				家族の来訪の機会は多く、家族会をはじめ事業所での行事への参加も積極的だと実感している。利用者の日常の生活の様子は、毎月「日常生活報告書」としてまとめ、担当職員が細やかなコメントを付けて送っているため、来訪の機会が少ない家族にも理解しやすい。職員の異動もあるが、新聞の発行で伝えたり、運営推進会議の機会を活用して家族に運営上の事柄を報告している。家族がいつでも意見や要望を伝えることができるよう、電話連絡や来訪時の声かけで良好な関係づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会時は居室に案内し、必ずお茶やコーヒーをお出しゆっくりと談話していただいている。また来ていただける様、優しい声掛けを心がけている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	お花見、クリスマス会には案内状を出し、出席していただき、利用者様と共に楽しまれている。普段の面会時も外気浴と一緒にベンチに座っている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	「あたご通信」という新聞を年7回発行しており、行事に参加した様子等を伝えている。また、月1回日常生活報告書を書き日常の様子、体調等について報告している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	面会時や電話での会話で家族が感じていることを理解し報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	面会時の前後等に家族様と話し、認知症への理解を得られるようにしている。出来ていた事が難しくなった事等も逐一報告している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	二カ月に一度の運営推進委員会議にて、報告理解や協力を得られるようにしている。	◎		◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議や家族会、お花見・クリスマス会等の案内をしている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて説明している。夜勤帯は一人体制の為、転倒等のリスクがある事を説明し同意を得ている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会時や電話での会話等、明るく感じの良い話し方を心がけている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居時に契約内容、締結、解約について、重要事項説明書にて具体的に説明している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	状態の変化等により、退居になる場合は連携病院の主治医や看護師、相談員と連携し、家族様と相談し納得していただいている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居時や料金改定時は内訳を文書で示し、料金の設定理由を説明している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅲ.地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	二カ月に一回の運営推進会議にて、民生員や老人クラブ会長、自治会長等に説明している。	/	◎	/	地域の丹原七夕祭りへは毎年参加している他、事業所駐車場での豆腐の移動販売や、庭の花が見ごろになると、地域住民が気軽に立ち寄ってくれており、良好な付き合いができています。これまで参加を楽しみにしていた丹原七夕祭りは残念ながら今年で終了となるが、今後他のイベント等への積極的な参加を期待したい。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	丹原商店街の七夕祭りに七夕飾りを毎年出品して参加している。また、地域の方の庭に咲いている紫陽花等を見学させてもらっている。	/	◎	◎		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	グループホームの存在意義が浸透してきており、暖かく挨拶や声掛けをしてくれている。	/	/	/		/
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	◎	庭に咲いたバラの花を見に来て下さったり関連施設の訪問販売を楽しみにされてる方も多い。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	庭に咲いたバラの花を見に来て下さったり、関連施設の訪問販売を楽しみにされてる方も多い。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	併設のデイサービスで、月2～3回ボランティアの方による歌謡ショー、日本舞踊、楽器演奏等のショーに参加している。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	初詣には近隣の神社仏閣にて参拝させていただいている。市民の憩いの場へ季節の色とりどりの花を見学にいっている。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	地域の七夕祭りに七夕飾りを出品したり、西条西消防署には年2回心肺蘇生法講習やAED取扱い講習、火災・地震対策予防の講習に来ていただいている。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	毎回、利用者様、ご家族様、市職員、民生委員、生活相談員、老人クラブ会長等の参加していただいている。	○	/	◎	運営推進会議は、家族や地域住民の参加協力を得て開催している。利用者やサービスの実際、評価への取組み状況について報告したり、季節に応じた話題や勉強会など議題を工夫して開催しているが、管理者は会議がマンネリ化していると感じ、これまでと違った議題の提案をしたいと考えている。写真やDVDなども活用して、事業所の様子を分かりやすく伝える工夫があり、参加者から意見をもらっている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	◎	外部評価後は資料を作成し、運営推進会議にて報告している。	/	/	◎		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	出席者からの意見や提案を日々のサービス向上に生かし報告している。年2回の火災避難訓練とは別に、水害を想定し1階から2階への避難を行った。	/	◎	○		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	時間については、出席者が都合がよい16時30分からにしている。	/	/	◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	運営推進会議後は西条市高齢介護課にファックスで送付している。家族にも公表している。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	グループホーム丹原の郷運営理念を作成し、職員に周知し、理念に基づいたケアに取り組んでいる。館内に運営理念を貼り職員全員、共通認識している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	二カ月に一度の運営推進会議にて理念を伝えている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで料理、入浴介助、夜勤の順で教育しスキルアップできるよう取り組んでいる。	/	/	/	代表者は、職員が働きやすい環境作りに努めている。法人内でのレクリエーションや懇親会等の活動を通じて、横のつながりも持つことができ、研修等の学びの機会も多く、働きながらスキルアップできる仕組みがあり、有効に活用できている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで料理、入浴介助、夜勤の順で教育しスキルアップできるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	今年度より、夜勤手当・運出手当の増もあり、条件向上に努めている。夜勤や運出を積極的にしてくれる職員も増えた。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	地域密着型サービス協会総会研修会等に管理者が参加したり、介護リーダー実践者研修に参加、その他、在宅介護研修センターでの研修に参加し職員の意識を向上させている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	様々なスポーツ行事や懇親会、忘年会等を企画し職員のストレス軽減に努めている。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	施設内での勉強会や外部の研修会等に参加し勉強している。また文献やインターネットで検索し理解している。	/	/	/	勉強会の開催や、外部研修への参加を通じ、不適切なケアはしないという意識が根付いている。疑問を感じる対応がある場合、申し送り時に話し合いを行っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	朝・夕2回申し送りをしており日々の体調やケアについて話し合い振り返っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	ユニット内に止まらず、朝・夕の申し送りで報告し職員で情報を共有している。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	全社的に、パワハラやセクハラ調査を実施し、日常的に注意を払い、点検している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎月の全体会、ユニット会で話しあっている。勉強会で身体拘束についての勉強も理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月の全体会、ユニット会で話しあっている。勉強会で身体拘束についての勉強も理解している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	現在ではそのような要望は無いが、今後要望があっても、弊害について説明し、家族様と話し合いを重ねながら理解を図っていく。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	研修に参加し、勉強会を開催し理解を深めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	そのような相談は無いが、文献やインターネット等で研鑽している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	現在一名のご利用者様が保佐人二人付いており月一回面会に来て下さっている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し職員に周知しているが、新しい職員はまだ全部把握し切れてない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	心肺蘇生法、AED取扱い講習を消防署来訪により受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリ・ハット報告書を作成し、その都度検討し、再発防止に努めている。申し送りもしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	その都度職員で話し合い、対応方法や注意する点等を申し送り、事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	管理者と24時間連絡が取れる体制にあり、連絡があれば迅速に対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	家族様からの要望等があれば管理者に報告相談し対応している。転倒し入院等になれば迅速に市の高齢介護課に文書で報告もしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情等があれば管理者が職員と話し合いながら家族と話し合いを重ねている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	月一回、介護相談員が来所して話しをしたり運営推進会議にて意見を求めている。			○	利用者には毎日の生活の中で要望を伺っている。また、家族が要望等を話しやすいように雰囲気配慮しているが、さらに細かな希望・意見の把握のため、事業所ではアンケートを検討中であり、実施により運営に活かしていきたいことを期待したい。職員からの相談や要望があれば、各ユニットの主任・副主任や管理者を通して法人本部へ働きかける体制が整備され、管理者との面談を半年ごと実施している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	面会時に話しやすい雰囲気を作ったり、運営推進会議や家族会への出席依頼をしている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族からの問い合わせがあれば管理者を通して適宜行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	毎朝各ユニットに利用者様に挨拶廻りしておりその際職員の意見や要望を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	年に二回面接を行っている。その他にも普段から職員の話しを聞く機会を持っており、利用者様の為にどうすべきかを話しあっている。			◎	

愛媛県グループホーム丹原の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員一人ひとりが、半年に一回目標設定シートを作成して自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	運営推進会議や家族への毎月の連絡時に、サービス評価の取り組みについて報告しているが、今後はさらに取り組みのモニターとしての協力を得て、協働しながらより良い運営を目指して欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価について、全体会、ユニット会で、課題を話して学習の機会としている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	外部評価の後、目標達成計画を作成し、全体会、ユニット会で職員に周知し取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議で目標達成計画を会議で報告し今後の取り組みを説明している。また意見や要望も言ってもらっている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	運営推進会議にて報告し、事業所全体で取り組んでいる。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	ジェイコムグループで様々な災害対策マニュアルを作成し、職員に周知している。	/	/	/	食料品や飲料等の備蓄を備えたり、様々な災害を想定した訓練の実施や災害対策マニュアルを整備し、法人をあげて積極的に取り組んでいる。運営推進会議で議題として取り上げたり、毎月のお知らせと共に情報を発信しているが、家族は不安を感じている状況である。災害訓練への家族参加や話し合いの場を設けることで、共に協力し合う支援体制の確保に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間の時間帯を想定し訓練しているが、二人体制、一人体制での訓練はできていない。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	パンや水等を定期的に点検、交換している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	半年に一回の火災避難訓練の実施、その後の消火器取扱い講習、年一回心肺蘇生法、AED講習火災等の災害時講習等をうけている。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	当ホームの訓練はしているが、地域の訓練には参加できていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	広報誌「あたご」を発行しているが、地域に向けては現在できていない。	/	/	/	高齢化が進む地域であり、事業所が地域活動の拠点となる期待感も大きい。現在、定着しつつある事業所駐車場で豆腐の移動販売など、地域の方が気軽に集まる機会を今後の活動のきっかけとし、相談支援の窓口・地域のケア拠点としての活動が広がることに期待したい。市や関係機関との連携は良好なものである。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	地域の方の見学や相談を受けている。またその情報をグループ内で共有している。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	バラの咲く季節には掲示板に「バラが咲きました。」と写真を掲示し地域の方が見に来ている。また訪問販売の豆腐を購入してくれている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	地元の中学生の体験研修を受け入れている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	丹原商店街での七夕祭りに、七夕飾りを、ご利用者様、職員で作成し、出展している。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月27日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 21名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870600750
事業所名	グループホーム丹原の郷
(ユニット名)	北町
記入者(管理者)	
氏名	濱田 寿男
自己評価作成日	30年 7月 7日

<p>【事業所理念】 1.入居者一人ひとりが自立した生活を営む事が出来るよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供いたします。 2.一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え、安全で質の高いサービスが提供できるよう努めます。 3.主治医・協力病院と連携して、入居者が健康に生活出来るよう援助します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 丹原商店街の七夕祭りに七夕飾りを、ご利用者様、職員で作成し、出展し地域協働しているが、防災訓練等には参加出来ていない。火災避難訓練に合わせて、緊急連絡網を使い電話連絡訓練を行う。看取りにおける指針を作成し、職員に周知している。掲示板に「バラが咲きました」と写真を掲示し、地域の方に気軽にバラを見に来ていただいた。またグループ内の車両訪問販売の時、野菜やトマト、豆腐や手作りパンを近隣住民の方は楽しみにされている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 利用者と職員が玄関先で楽しそうに談笑する姿が印象的で、外部からの訪問者も優しく引き入れてくれる様子が伺えた。また、すれ違う職員の元気で爽やかな挨拶に清々しさを感じた。事業所での看取りを希望する家族も増えてきており、職員は事業所のできる限りの支援に努めている。勤続年数の長いベテラン職員と最近雇用された若い職員、男性と女性の比率バランスの良い職員配置となっており、好みの食事の提供、気に入った髪型や服装で本人らしさを保つほか、散歩など外出し気分転換を図るなど、利用者の要望に沿った支援に努めている。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	会話の中から希望や意向をくみ取るように職員一同努めている。	○	/	◎	日々の利用者との会話の中から、意向や希望を引き出せるように心がけており、利用者からの聞き取りが難しい場合は家族に協力を得てアセスメントシートにまとめている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	利用者様の視点で職員同士で話し合い検討し、本人はどうか考えている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族や親戚の面会時に本人の好きな事や希望・意向を聞き出している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日常会話から、食べたいものや、やりたい事等生活記録に記載している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	日常から、思い込みが起らないように、よく職員間で話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	家族や利用者様から、生活環境、暮らし方を聞いている。また、普段の会話の中からも情報収集に努めている。	/	/	◎	利用者の幼少期から現在に至るまで、年代ごとにまとめられた生活歴シートを作成し、職員間で情報を共有し、理解を深めている。また、新たに聞き取った情報など、半年毎にフェイスシートやアセスメントシートを更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	できる事、できない事シートを活用し、状態が変われば、その都度話し合っている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の生活の中での様子を記録し、赤線を引いて職員間で共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	生活環境や精神面、その場面に応じて職員間で話し合っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	一日の生活リズムを介護記録、生活記録に記入しており、必要に応じた対応はできている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	毎月、ユニット会で話し合っている。必要に応じてその日の出勤者でも話し合っている。	/	/	○	利用者が求めていることをユニット会で話し合い、本人視点での検討に努めている。日々の支援の中での気づきは、当日の出勤者間で話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	ユニット会で職員間で検討している。面会時には主介護者様にも適宜相談している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	ユニット会で意見やアイデアを職員間で出し合いながら検討している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	利用者様や家族の意向を踏まえて、職員間で話し合って介護計画を作成している。	/	/	/	ユニット会で話し合った内容や、利用者や家族からの意向を踏まえ、計画作成担当者が介護計画書にまとめている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	三か月に一回、モニタリングを行い、状態の変化に対応している。利用者様や家族の意向を踏まえた上で介護計画を作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	個々のファイルを用意し、身体状況、食事、水分量、排泄等の記録をし状況に応じている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	二カ月に一度、利用者様が安心して、地域での暮らしが続けられるように、家族の方や地域の方、民生委員の方々と意見交換する機会を設けている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアカンファレンスを三か月に一度見直している。必要に応じて見直しもやっている。	/	/	/	3か月毎に開催するケアカンファレンスで、介護計画の内容を把握、理解している。生活記録用紙を用いて、毎日の実践内容を記録し、職員間で状況を確認している。記録物は全体的に記録量が多く、細やかで、誰が見ても分かりやすいよう色分けして記載し、法人で使用する様式を改善して事業所オリジナルの様式を使用している。利用者の暮らしの様子や支援内容を具体的に記入し、職員の気づきや工夫等は申し送りノートに個別に記録されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	生活記録用紙に記録し、介護計画にそって日々の支援を行っている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	生活記録に記録し、特に注意したい事等は、赤線青線、緑線、で分類し職員に申し送っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	生活記録とは別に、申し送りノートを作成し、記入し職員間で情報共有している。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	三か月に一度ケアカンファレンスを行っている。変化がなければ、六か月後に作成している。	/	/	/	3か月毎に見直しを実施している。利用者ごとの担当職員が中心となって、毎日の実施状況を確認したり、モニタリングの評価を通じて、現状確認を行っている。利用者の状態に変化が生じた場合、家族と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	全体会やユニット会で毎月、一人ひとり、利用者の変化等について話し合っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人や家族の要望を取り入れながら、介護計画の見直しをしている。また、状態変化が生じた場合も家族と連携をして適宜見直ししている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ユニット会で話し合い、相談している。緊急時はその都度行っている。	/	/	/	毎月、事業所と併設のデイサービスセンター合同の職員会議や、各ユニットでの会議を設けている。会議で話し合われた内容は、会議録や申し送りノートで確認し、共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	副主任が中心になり、若い職員や新しい職員も意見が言いやすい雰囲気を作っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	当日勤務の職員以外は、出席できるようにしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	ユニット会でノートに記録し、出勤等で出席できない職員にも伝えるようにしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートを活用し出勤時には、必ず目を通すようにしている。大事なことは、赤線を引いている。	/	/	/	家族との連絡事項や相談内容も含め、議事録や申し送りノートを活用し、確実な申し送りができるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノート、ユニット会ノート、生活記録等に記入し、面会時に家族と連絡・相談した事を職員全員に伝わるようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	会話の中から利用者様の思いをくみ取る努力をしている。無理強いしないように注意している。	/	/	/	本人の自己決定を尊重し、他の利用者とは少し離れ、一人の時間を過ごしたい利用者が廊下のソファでのんびり過ごしている場面もあり、その日の暮らし方を選択できるように努めている。利用者の好む話題の提供や声かけで、雰囲気盛り上げている様子が見られた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自分で選ぶ事ができる方は、声掛けをし自己決定していただいている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	思いや希望が、何でも話せる様な信頼関係が築けるように、寄り添っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	一人ひとりの様子を見ながら、職員中心にならないように、支援している。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	本人が好きことや、できそうな事を勧めたり、声かけて雰囲気作りをしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	利用者様が何かしたい時やしてもらいたいと感じられる時は行動に移している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	常に利用者様は、人生の先輩だという事を忘れず敬いの心を持って、職員全員、意識して声掛けしている。	◎	◎	◎	利用者は人生の先輩である、という敬いの精神が職員に浸透しており、声かけや対応に意識している様子が感じられ、家族や地域住民からも評価が得られている。排泄や入浴など羞恥心に配慮する場面では、他者に悟られないようにさりげなく誘導を促すなど、配慮ある対応が心がけられている。居室は利用者専用の場所である理解があり、入退室にはノックや了承を得るなどのマナーが身に付いており、居室が空室になっている場合には戸を閉め、プライバシーに配慮した支援に努めていた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	目立たず、さりげない言葉かけを心掛けている。トイレの声掛け等は小声で言うように心掛けている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	トイレや入浴時は必ず戸は閉めている。また入浴時に女性職員に交代したりと配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	シーツ交換時や入室時は必ず、声掛けした後に入室するようにしている。訪室する時は必ずノックしている。いない時は戸は閉めている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	主介護者様以外にはプライバシーに関する事は話さないようにしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事仕事や洗濯物たたみ等出来る事は協力してもらっている。また、してもらったり、教えてもらったりした場合は感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	興奮すると大きな声を出してしまう利用者や、物を放り投げて大きな音を立てたりする利用者もいるが、ベテラン職員が雰囲気を察知して早めに対応し、他利用者が不安を感じないように配慮していた。トラブルを未然に防ぎ、利用者同士が関われるように、リビングでの配席に配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	人間は一人では生きていけない、助けあって支えあって生きていく事を理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	テーブルの座る位置等、利用者様が助け合って仲良く過ごせるように配慮している。孤立しがちな利用者様も、利用者様や職員が媒体になり、馴染めるよう配慮している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルになりそうな時や不安な時は、職員が必ず間に入り、話しを聞き、トラブル解消、不安解消に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	利用者様や家族から情報収集しているがあまり根ほり葉ほり聞くことが出来ない事もある。昔の事を話したがる利用者様や家族もいる。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	利用者様や家族から情報収集しているがあまり根ほり葉ほり聞くことが出来ない事もある。昔の事を話したがる利用者様や家族もいる。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	車に乗って外出した際は、行き先を伝えながら話をし思いだしてもらおう努力している。デイスーツを利用されている方に会いに行ったり、逆に話しに來られたりもしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会時、お部屋にて、談笑していただくようにしている。来て下さった事に感謝し、また来ていただけるよう優しい声掛けを心掛けている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	天気の良い日は必ず、外気浴・日光浴をしている。元気な方はホーム近くを散歩している。時々、外出して、花や鯉、かわいい動物を見にいたり、外食をしに行ったりしている。	○	○	○	毎日、事業所建物の外へ出て、敷地内を散歩したり、毎月1～2回は外出を予定している。重度の利用者についても、体調に無理のない範囲で、他の利用者と一緒に外へ出掛ける機会を持ったり、ユニット内の陽当たりの良い場所で過ごす時間を作っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の方の家にお邪魔させていただいて、花を見せていただいている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	車椅子の方も天気の良い日は屋外に出て外気浴されている。	/	/	◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	家族とドライブに行ったり、知人が毎週キリスト教会の礼拝に送迎してくれたりしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	ユニット会で話し合ったり、日々の申し送りで伝えたり、職員で検討し、寄り添いケアを行っている。	/	/	/	利用者のできることを把握し、見守りながら散歩や歩行訓練を行ったり、風船を使用したりリハビリテーション等を実施し、月1～2回、法人の理学療法士の訪問があり、専門家によるアドバイスを受けている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	利用者様がゆったり・のんびり・穏やかに、持つてる力を発揮しながら暮らしていけるよう、個々にあったケアを心掛けている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動するようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来る事は極力自力でしていただいている。危ないと思った時は介助している。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	一人ひとりの、嗜好や趣味を把握し、楽しみを持って生活が出来るように支援している。	/	/	/	調理や洗濯などの家事的な作業の他、中庭で育てているトマトやスナックえんどうの世話を担当している利用者もおり、それぞれ興味のあることに取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者様それぞれに、得意な事は、特に声かけし、していただいている。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	ボランティアの方が來られた時、詩吟を披露してくれる利用者様もいる。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	利用者様との会話や家族の会話の中からその人らしさを見いだす様になっている。	/	/	/	食事中、職員がさりげなく食べこぼしをカバーしている様子が見られ、利用者のプライドに配慮しながら支援を行っている。訪問理美容サービスを利用している利用者が多く、好みのスタイルに整えられるよう支援している。重度な状態であっても、アセスメントで利用者の好みを把握しており、本人らしさへの支援につなげている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	美容師(有償ボランティア)に来てもらい、自分好みの髪型にしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	起床後には、一緒に鏡を見ながら髪型を整えたりその人らしくいられるように支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出に適した服装を、職員と一緒に談笑しながら相談している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	利用者様のプライドを大切に、声に出す事なく、さりげなくカバーしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族の送迎で散髪される方もいる。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	毎日、本人らしさが保てるように、髪型や服装を綺麗にしている。	/	/	◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	おいしく食べていただけるよう、食器や色取りにも配慮し、楽しい食事が出来る様にしている	/	/	/	利用者の重度化等により、一緒に食材の買い物に行くことは徐々に難しくなってきたが、盛り付け等できる作業を共に行っている。中庭で育てているトマトを収穫して食べる等、旬の新鮮な食材を取り入れるように努めている。献立は利用者の意見を聞きながら作成し、嗜好の好みやアレルギーの有無を入居時に把握している。自宅で使用していた食器類を持ち込んだり、誕生日に事業所からプレゼントされた食器を愛用する利用者もいて、自由に使用している。職員も利用者と同じ食卓を囲み、一緒に食べながら必要な介助を行い、食事のペース等の見守りを実施している。重度な状態であっても、調理の香りに誘われるようにリビングに集い、楽しみにしている様子が見られた。献立のバランスや偏りについて職員間で話し合いを行い、献立作りに反映している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物・献立・食材選びは職員がしている。野菜切りや下膳等は行っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	野菜を切ったり盛り付けをする等利用者様それぞれが自分の出来る事で助けあっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者様にアレルギーの方はいない、苦手なものも工夫して食べていただいている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	春夏秋冬、旬のものを取り入れ、季節感を味わっていただき、利用者様も喜ばれている。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者様の状態や体調により、ミキサー食や刻み食にする事もあるが、献立によって、色とりどりの器や工夫して盛り付けたりしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	利用者様の使い慣れた茶碗、箸等を使用している。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者様と会話を楽しみながら、むせ込みのある人や食べこぼしのある人等にさりげなく、サポートしている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	リビングにて皆様と生活している事で、調理の匂いや音で、視覚・嗅覚に訴え、待ち遠しい素振りを見せられる利用者様もいる。	◎	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事量、栄養バランス、水分摂取量等しっかり確保出来ている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量が少ない場合は、栄養補助食品で補ったり水分についても、少量を回数を増やして飲んでいただいたり工夫している。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	職員間で話し合いはその都度行っている。利用者様の事を考えて献立を立てている。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手洗いの励行、まな板の消毒、食材の賞味期限の確認等に気をつけている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	利用者一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの介助を行っている。	/	/	/	口腔ケアのマニュアルを作成している。自分で歯磨きができる利用者には自分で行ってもらい、できない部分を介助している。歯磨き等の口腔ケアの実施後には、チェックを行って健康状態を把握している。義歯利用者は週2回の洗浄剤での洗浄を実施し、出血や義歯調整等の必要時には訪問歯科の受診支援を行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	虫歯、義歯の異常があれば、歯科受診している。舌や口腔内も口腔ケア時に確認している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診した時に義歯の洗浄の仕方についてやケアの仕方について教えていただいている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自力で出来る方は自分していただいている。週二回入れ歯洗浄剤にて洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	自力で出来る方は自分でしている。週二回入れ歯洗浄剤にて洗浄している。口腔ケア時に出血や炎症のチェックは職員がしている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	虫歯や義歯の不具合があれば歯科受診している。その際は家族に必ず、受診の承諾を得ている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレでの排泄を常に促している。出来る限り、オムツや紙パンツ類の使用をせず、排泄ができるように支援している。	/	/	/	排泄の状況を記録して排泄パターンを確認し、トイレでの自然な排泄ができるよう支援している。排便コントロール等、併設デイサービスの看護師にいつでも相談できる環境にある。状況に応じた適切な排泄用品の使用についてユニット会等で話し合い、アセスメントに反映している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	研修や勉強会等に参加、文献やネット等で勉強し理解を深める努力をしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を使用し、職員全員で排泄パターンを把握して支援できている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄パターンを把握している為、変化があれば、ユニット会で議題にあげ、検討・見直しを常に行っている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄チェック表で日々確認し、スタッフ間で情報を有して、その都度、看護師も交えて検討し対策を実施している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	個々のパターンに合わせて、必要な場合は声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるように支援している。	◎	必ずユニット会で検討し、家族様に連絡し相談している。理解できる利用者様はご自分で選択できるように支援している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	排泄状況に合わせて、必要な場合は適宜使用している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	朝食時のヤクルトやバナナ等便通が良くなる食材を摂っている。食後のトイレ誘導、廊下歩行の運動にも取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	入浴前にバイタルチェックをして、体調の把握をしている。体調に合わせてゆっくりと入浴していただけるように努めている。	◎	/	◎	基本的には2日に一度のペースで入浴しているが、希望する利用者は毎日入浴が可能である。男性職員も多く、利用者の希望等に応じて、介助する職員が交代することもあり、柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	入浴剤を使用したり、冬至には柚子湯を用意して、気分良く入浴できるように努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来る限り、入浴動作の自立を促している。浴槽内へは、一部介助で安全に入らせていただいている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴時間帯や声掛けをするタイミングを工夫することで入浴できている。必要に応じて、男女スタッフ交代し羞恥心に配慮している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に必ずバイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、入浴の可否を見極めている。入浴後も水分補給等に注意している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	介護記録や生活記録に、トイレ覚醒のパターン等を記入し職員全員が把握している。	/	/	/	夜眠れない利用者には無理強いすることなく、しばらく会話をしたり、精神的に落ち着けるよう支援に努めている。概ね利用者はよく眠れていると感じており、服薬などの医療面は医師に相談している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の活動量を増やしたり、居室での臥床時間を減らすように支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	ユニット会や日々の申し送りにて睡眠時間について報告・検討し職員が情報を共有しケアを実施している。必要に応じて往診日等に主治医に相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個別に居室を用意している為、休みたい時に、個々が好きな時間に休んでいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	年賀状や暑中見舞い等のはがきのやり取りを職員と共に文面を考えたりしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状や暑中見舞い等のはがきのやり取りを職員と共に文面を考えたりしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	家族様と相談し、可能な場合はしていただく事もある。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	ご本人様に伝えたり、家族様に連絡したり、共有できるように支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	面会時等に情報を共有しながら、家族にも声掛けし協力してもらっている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	家族様と相談しながら、ケアを行う事で理解できている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	現在利用者様一名だけ、お金を定期的に使用し、活動している。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	外出行事は実施しているが、買い物等は実施していない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族様に相談し、一名の利用者様が、支援でお金を使用しているが、保管は管理者が金庫で保管している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	必要に応じて連絡・相談を受けている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	家族様の要望で、保管は管理者が金庫でしている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	その都度本人様や家族様に相談しながら、本人様の意向に添った支援に努めている。	◎	/	○	働いている家族も多く、朝早い時間の来訪も自由にできるように面会時間を設定せず、24時間体制で気兼ねなく出入りできる環境を整備している。利用者や家族のニーズにはできるだけ沿えるよう努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関先や建物の周辺に春夏秋冬の季節の色とりどりの草花を育てたり、いつでも見に来ていただけるように開放している。	◎	◎	◎	玄関前の駐車場では地域住民も楽しみにしている豆腐の移動販売が行われ、販売日には賑やかな光景となる。広々とした事業所敷地には花々を育て、誰にも親しさが感じられる玄関回りを演出している。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	リビングの壁には季節の飾りを毎月飾っており、花を生けたり、廊下にはお誕生会や季節の行事の写真をはっている。居室には面会時のお孫さんやひ孫さんの写真を飾ったりしている。	○	◎	○	廊下に設置したソファや、畳の休憩スペースで、利用者が腰をかけてくつろぐ様子が見られた。利用者の生活風景が見られるよう写真を展示したり、利用者の作成した作品が飾られ、日常の様子を感じ取ることができる。今年で最期となった丹原七夕祭りへの作品準備に精を出しているところであった。環境委員が中心となり、客観的視点での環境整備に努め、カーペットやカーテンといった細部にまで配慮した清潔空間づくりに力を入れている。リビングでは利用者が好きな場所で自由に過ごしており、庭先に咲く花が生けられたりと、ほっと温か味ある空間となっていた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	環境委員を中心に細目に掃除をしている。またカーペット交換やカーテン交換も実施している。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	食材切り等出来る事を手伝ってもらったり、旬の野菜にふれたり、季節感のある食事メニュー作りやユニット内の装飾に努めている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席の配置や利用者様の様子を見ながらその都度工夫し対応している。廊下等にソファを置き一人で静かに過ごせる場所を作っている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	カーテンや引き戸を使用し、直接見えないようにプライバシーを守っている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅で使用していた家具を持ち込んでいただいたり家族からのものがきや写真をかざったりのんびり・穏やかに過ごしていただいている。	◎		○	使い慣れたたんす等の生活用品を自由に持ち込んでもらい、居心地よく利用してもらっている。居室は清潔で清掃が行き届き、すっきりとした印象が感じられる。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	リビングには日めくりカレンダーを作り利用者様がめくれるようにしている。自室には表札を作っている。トイレや浴室も表示している。				○	居室入口には表札があり、トイレや浴室などの位置表示を工夫し、利用者が戸惑うことがないよう配慮している。日めくりカレンダーを管理する利用者もいて、利用者の力を活かせる支援に努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	リビングには日めくりカレンダーを作り利用者様がめくれるようにしている。自室には表札を作っている。トイレや浴室も表示している。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	テーブルの上やカウンターに季節の花を生けたり壁には季節の貼り絵等を毎月飾っている。読書が好きな方は園芸や好みの本、新聞をいつでも読めるように置いている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	職員全員、鍵をかける事の弊害を理解し、鍵をかけていない。	◎	◎	◎	法人全体で鍵をかけないケアに取り組んでおり、正しい理解に努め、施錠はされていない。2階フロアのユニットでは、階段からの転落事故にも十分留意しており、職員の行き届いた配慮により事故等もない。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	今、現在鍵はかけていない。施錠を望む家族も現在いない。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	日中はいつでも外へ出て散歩や庭に咲いた花等が見れるよう鍵はしていない。職員が目配り・気配りして注意している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	生活歴やアセスメント等を行い、カルテに閉じており、いつでも確認できるようにしている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	普段と違った様子やバイタル測定結果の時は生活記録に残している。記録に青線を引きわかりやすくしている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	施設長と24時間連絡が取れる体制である。西条市民病院と連携病院であり、相談できる関係を築いている。日中はデイの看護師に相談もしている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族が希望するかかりつけ医や医療機関で受診できるように支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	月一回連携病院の往診を受けている。かかりつけ医を継続される場合、ご家族が受診介助できない場合は職員がお連れしている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	ご家族様が同行する場合は結果を聞き次に繋げている。職員が同行する場合は受診前後に、家族様に連絡報告している。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	ホームでの状態や介護状態について、介護要約サマリーを作成し情報提供している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院の主治医や看護師、相談員と連携を密にし情報交換に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	当ホームの連携病院であり、普段から、往診等で顔なじみであり連携は取れている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	月に三回当ホームに西条市民病院の主治医の往診があり、事前に看護師に相談している。往診時主治医にも相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談できる体制にある。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談できる体制にある。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	個人のカルテを作成し服用している薬の説明文を挟んで職員全員に周知している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服用時職員二人でダブルチェックしている。服薬後も飲み忘れがないか薬箱のチェックもしている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	朝・昼のバイタル測定や日常の様子観察をしている。いつもと様子が違うと連携病院の看護師に相談し受診する場合もある。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	日々の状態変化注意している。変化があれば家族、主治医、看護師に相談する体制は整っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム丹原の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし相談検討し、その時その時で最善の方針を共有している。	/	/	/	利用者や家族の希望を把握し、重度化が進んでも事業所でできる限りの介護を行い、これまでに20名以上の利用者を看取ってきた。看取りの経験がある職員も多く、医療機関や家族とその時々々の状況において方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし相談検討し、その時その時で最善の方針を共有している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者、職員交えて全体会等でどこまで支援ができるか話しあっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	出来ること、出来ない事については、その時その時で説明し理解していただいている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	利用者様がより良く暮らせる為に連携病院の主治医等と連携してチームで支援していく体制にしている。当ホームでの生活が難しい様であれば、連携して、住み替えの提案も相談の、上いしている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の意向は聞くようにしている、利用料の支払いが苦しい家族は出来る限り、期限考慮している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会等で看護師より、シーズン前に定期的に学んでいるが、肝炎、MRSAは学べてない。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	毎年勉強会で繰り返し手順を確認し、発生した時にすみやかに処理できるように、道具一式を揃えている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	市報、グループ内の市民病院の患者発生状況、インターネットを通じて最新情報を入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	インフルエンザ警報が出たり、流行している時は面会を控えてもらっている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時、外出時、外気浴時、は必ず手洗い、緑茶うがいをしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時等に日頃あったエピソード等をお伝えしている。				家族の来訪の機会は多く、家族会をはじめ事業所での行事への参加も積極的だと実感している。利用者の日常の生活の様子は、毎月「日常生活報告書」としてまとめ、担当職員が細やかなコメントを付けて送っているため、来訪の機会が少ない家族にも理解しやすい。職員の異動もあるが、新聞の発行で伝えたり、運営推進会議の機会を活用して家族に運営上の事柄を報告している。家族がいつでも意見や要望を伝えることができるよう、電話連絡や来訪時の声かけで良好な関係づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会時は居室に案内し、必ずお茶やコーヒーをお出しゆっくりと談話と談話していただいている。また来ていただける様、やさしい声かけを心がけている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	お花見、クリスマス会には案内状を出し、出席していただき、利用者様と共に楽しませている。普段の面会時も外気浴と一緒にベンチに座っている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	「あたご通信」という新聞を年7回発行しており、行事に参加した様子等を伝えている。また、月1回日常生活報告書を書き日常の様子、体調等について報告している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	面会時や電話での会話で家族が感じていることを理解し報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	面会時の前後等に家族様と話し、認知症への理解を得られるようにしている。出来ていた事が難しくなった事等も逐一報告している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	二カ月に一度の運営推進委員会議にて、報告理解や協力を得られるようにしている。	◎		◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議や家族会、お花見・クリスマス会等の案内をしている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて説明している。夜勤帯は一人体制の為、転倒等のリスクがある事を説明し同意を得ている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会時や電話での会話等、明るく感じの良い話し方を心がけている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居時に契約内容、締結、解約について、重要事項説明書にて具体的に説明している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	状態の変化等により、退居になる場合は連携病院の主治医や看護師、相談員と連携し、家族様と相談し納得していただいている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居時や料金改定時は内訳を文書で示し、料金の設定理由を説明している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	二カ月に一回の運営推進会議にて、民生員や老人クラブ会長、自治会長等に説明している。	/	◎	/	地域の丹原七夕祭りへは毎年参加している他、事業所駐車場での豆腐の移動販売や、庭の花が見ごろになると、地域住民が気軽に立ち寄ってくれており、良好な付き合いができています。これまで参加を楽しみにしていた丹原七夕祭りは残念ながら今年で終了となるが、今後他のイベント等への積極的な参加を期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	丹原商店街の七夕祭りに七夕飾りを毎年出品して参加している。また、地域の方の庭に咲いている紫陽花等を見学させてもらっている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	グループホームの存在意義が浸透してきており、暖かく挨拶や声掛けをしてくれている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	◎	庭に咲いたバラの花を見に来て下さったり関連施設の訪問販売を楽しみにされてる方も多い。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	庭に咲いたバラの花を見に来て下さったり、関連施設の訪問販売を楽しみにされてる方も多い。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	併設のデイサービスで、月2～3回ボランティアの方による歌謡ショー、日本舞踊、楽器演奏等のショーに参加している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	初詣には近隣の神社仏閣にて参拝させていただいている。市民の憩いの場へ季節の色とりどりの花を見学にいっている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	地域の七夕祭りに七夕飾りを出品したり、西条西消防署には年2回心肺蘇生法講習やAED取扱い講習、火災・地震対策予防の講習に来ていただいている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	毎回、利用者様、ご家族様、市職員、民生委員、生活相談員、老人クラブ会長等の参加していただいている。	○	/	◎	運営推進会議は、家族や地域住民の参加協力を得て開催している。利用者やサービスの実際、評価への取組み状況について報告したり、季節に応じた話題や勉強会など議題を工夫して開催しているが、管理者は会議がマンネリ化していると感じ、これまでと違った議題の提案をしたいと考えている。写真やDVDなども活用して、事業所の様子を分かりやすく伝える工夫があり、参加者から意見をもらっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	◎	外部評価後は資料を作成し、運営推進会議にて報告している。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	出席者からの意見や提案を日々のサービス向上に生かし報告している。年2回の火災避難訓練とは別に水害を想定し1階から2階への避難も実施した。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	時間については、出席者が都合がよい16時30分からにしている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	運営推進会議後は西条市高齢介護課にファックスで送付している。家族にも公表している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	グループホーム丹原の郷運営理念を作成し、職員に周知し、理念に基づいたケアに取り組んでいる。館内に運営理念を貼り職員全員、共通認識している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	二カ月に一度の運営推進会議にて理念を伝えている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	新しい職員や若い職員に施設内外の研修を受けてもらっている。研修後は勉強会やユニット会にて発表してもらい職員全員に周知している。	/	/	/	代表者は、職員が働きやすい環境作りに努めている。法人内でのレクリエーションや懇親会等の活動を通じて、横のつながりも持つことができ、研修等の学びの機会も多く、働きながらスキルアップできる仕組みがあり、有効に活用できている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで、料理、入浴介助、夜勤の順で教育しスキルアップできるように取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	今年度より、夜勤手当・運出手当の増もあり、条件向上に努めている。夜勤や運出を積極的にしてくれる職員も増えた。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	地域密着型サービス協会総会研修会等に管理者が参加したり、介護リーダー実践者研修に参加、その他、在宅介護研修センターでの研修に参加し職員の意識を向上させている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	様々なスポーツ行事や懇親会、忘年会等を企画し職員のストレス軽減に努めている。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	施設内での勉強会や外部の研修会等に参加し勉強している。また文献やインターネットで検索し理解している。	/	/	/	勉強会の開催や、外部研修への参加を通じ、不適切なケアはしないという意識が根付いている。疑問を感じる対応がある場合、申し送り時に話し合いを行っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	朝・夕2回申し送りをしており日々の体調やケアについて話し合い振り返っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	ユニット内に止まらず、朝・夕の申し送りで報告し職員で情報を共有している。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	全社的に、パワハラやセクハラ調査を実施し、日常的に注意を払い、点検している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎月の全体会、ユニット会で話しあっている。勉強会で身体拘束についての勉強も理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月の全体会、ユニット会で話しあっている。勉強会で身体拘束についての勉強も理解している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	現在ではそのような要望は無いが、今後要望があっても、弊害について説明し、家族様と話し合いを重ねながら理解を図っていく。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	研修に参加し、勉強会を開催し理解を深めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	そのような相談は無いが、文献やインターネット等で研鑽している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	現在一名のご利用者様が保佐人二人付いており月一回面会に来て下さっている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し職員に周知しているが、新しい職員はまだ全部把握し切れてない。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	心肺蘇生法、AED取扱い講習を消防署来訪により受けている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリ・ハット報告書を作成し、その都度検討し、再発防止に努めている。申し送りもしている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	その都度職員で話し合い、対応方法や注意する点等を申し送り、事故防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	管理者と24時間連絡が取れる体制にあり、連絡があれば迅速に対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	家族様からの要望等があれば管理者に報告相談し対応している。転倒し入院等になれば迅速に市の高齢介護課に文書で報告もしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情等があれば管理者が職員と話し合いながら家族と話し合いを重ねている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	月一回、介護相談員が来所して話をしたり運営推進会議にて意見を求めている。	/	/	○	利用者には毎日の生活の中で要望を伺っている。また、家族が要望等を話しやすいように雰囲気配慮しているが、さらに細かな希望・意見の把握のため、事業所ではアンケートを検討中であり、実施により運営に活かしていきたいことを期待したい。職員からの相談や要望があれば、各ユニットの主任・副主任や管理者を通して法人本部へ働きかける体制が整備され、管理者との面談を半年ごと実施している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	面会時に話しやすい雰囲気を作ったり、運営推進会議や家族会への出席依頼をしている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族からの問い合わせがあれば管理者を通して適宜行っている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	毎朝各ユニットに利用者様に挨拶廻りしておりその際職員の意見や要望を聞いている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	年に二回面接を行っている。その他にも普段から職員の話しを聞く機会を持っており、利用者様の為にどうすべきかを話しあっている。	/	/	◎	

愛媛県グループホーム丹原の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員一人ひとりが、半年に一回目標設定シートを作成して自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	運営推進会議や家族への毎月の連絡時に、サービス評価の取組みについて報告しているが、今後はさらに取組みのモニターとしての協力を得て、協働しながらより良い運営を目指して欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価について、全体会、ユニット会で、課題を話して学習の機会としている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	外部評価の後、目標達成計画を作成し、全体会、ユニット会で職員に周知し取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議で目標達成計画を会議で報告し今後の取り組みを説明している。また意見や要望も言ってもらっている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	運営推進会議にて報告し、事業所全体で取り組んでいる。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	ジェイコムグループで様々な災害対策マニュアルを作成し、職員に周知している。	/	/	/	食料品や飲料等の備蓄を備えたり、様々な災害を想定した訓練の実施や災害対策マニュアルを整備し、法人をあげて積極的に取り組んでいる。運営推進会議で議題として取り上げたり、毎月のお知らせと共に情報を発信しているが、家族は不安を感じている状況である。災害訓練への家族参加や話し合いの場を設けることで、共に協力し合う支援体制の確保に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間の時間帯を想定した訓練は実施しているが、二人体制、一人体制の訓練は実施出来ていない。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	パンや水等を定期的に点検、交換している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	半年に一回の火災避難訓練の実施、その後の消火器取扱い講習、年一回心肺蘇生法、AED講習火災等の災害時講習等をうけている。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	当ホームの訓練はしているが、地域の訓練には参加できていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	広報誌「あたご」を発行しているが、地域に向けては現在できていない。	/	/	/	高齢化が進む地域であり、事業所が地域活動の拠点となる期待感も大きい。現在、定着しつつある事業所駐車場での豆腐の移動販売など、地域の方が気軽に集まる機会を今後の活動のきっかけとし、相談支援の窓口・地域のケア拠点としての活動が広がることに期待したい。市や関係機関との連携は良好なものである。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	地域の方の見学や相談を受けている。またその情報をグループ内で共有している。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	バラの咲く季節には掲示板に「バラが咲きました。」と写真を掲示し地域の方が見に来ている。また訪問販売の豆腐を購入してくれている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	地元の中学生の体験研修を受け入れている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	丹原商店街での七夕祭りに、七夕飾りを、ご利用者様、職員で作成し、出展している。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月27日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 21名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870600750
事業所名	グループホーム丹原の郷
(ユニット名)	上町
記入者(管理者)	
氏名	濱田 寿男
自己評価作成日	30年 7月 7日

<p>【事業所理念】 1.入居者一人ひとりが自立した生活を営む事が出来るよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供いたします。 2.一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え、安全で質の高いサービスが提供できるよう努めます。 3.主治医・協力病院と連携して、入居者が健康に生活出来るよう援助します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 丹原商店街の七夕祭りに七夕飾りを、ご利用者様、職員で作成し、出展し地域協働しているが、防災訓練等には参加出来ていない。火災避難訓練に合わせて、緊急連絡網を使い電話連絡訓練を行う。看取りにおける指針を作成し、職員に周知している。掲示板に「バラが咲きました」と写真を掲示し、地域の方に気軽にバラを見に来ていただいた。またグループ内の車両訪問販売の時、野菜やトマト、豆腐や手作りパンを近隣住民の方は楽しみにされている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 利用者と職員が玄関先で楽しそうに談笑する姿が印象的で、外部からの訪問者も優しく引き入れてくれる様子が伺えた。また、すれ違う職員の元気で爽やかな挨拶に清々しさを感じた。事業所での看取りを希望する家族も増えてきており、職員は事業所のできる限りの支援に努めている。勤続年数の長いベテラン職員と最近雇用された若い職員、男性と女性の比率バランスの良い職員配置となっており、好みの食事の提供、気に入った髪型や服装で本人らしさを保つほか、散歩など外出し気分転換を図るなど、利用者の要望に沿った支援に努めている。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	情報共有の為、朝・夕2回申し送りをしている。	○	/	◎	日々の利用者との会話の中から、意向や希望を引き出せるように心がけており、利用者からの聞き取りが難しい場合は家族に協力を得てアセスメントシートにまとめている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	思いをくみ取るように努力している。本人の視点にたって考え意見を出し合っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会時に得た情報を伝達している。本人の好きな事等を聞き出している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	業務日誌や生活記録、申し送りノート等に記録し職員で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	日々の会話の中で、ささいな事も見逃さないように注意している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	家族や利用者様から、生活環境、暮らし方を聞いている。また、普段の会話の中からも情報収集に努めている。	/	/	◎	利用者の幼少期から現在に至るまで、年代ごとにまとめられた生活歴シートを作成し、職員間で情報を共有し、理解を深めている。また、新たに聞き取った情報など、半年毎にフェイスシートやアセスメントシートを更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	できる事、できない事シートを活用し、状態が変われば、その都度話し合っている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の生活の中での様子を記録し、赤線を引いて職員間で共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	一対一で個別対応しゆっくりと利用者様の話を傾聴している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	一日の生活リズムを介護記録、生活記録に記入しており、必要に応じた対応はできている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	毎月、ユニット会で話し合っている。必要に応じてその日の出勤者でも話し合っている。	/	/	○	利用者が求めていることをユニット会で話し合い、本人視点での検討に努めている。日々の支援の中での気づきは、当日の出勤者間で話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	ユニット会で職員間で検討している。面会時には主介護者様にも適宜相談している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	ユニット会で意見やアイデアを職員間で出し合いながら検討している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	利用者様や家族の意向を踏まえて、職員間で話し合って介護計画を作成している。	/	/	/	ユニット会で話し合った内容や、利用者や家族からの意向を踏まえ、計画作成担当者が介護計画書にまとめている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	三か月に一回、モニタリングを行い、状態の変化に対応している。利用者様や家族の意向を踏まえた上で介護計画を作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	個々のファイルを用意し、身体状況、食事、水分量、排泄等の記録をし状況に応じている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	二カ月に一度、利用者様が安心して、地域での暮らしが続けられるように、家族の方や地域の方、民生委員の方々と意見交換する機会を設けている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアカンファレンスを三か月に一度見直している。必要に応じて見直しもやっている。	/	/	/	3か月毎に開催するケアカンファレンスで、介護計画の内容を把握、理解している。生活記録用紙を用いて、毎日の実践内容を記録し、職員間で状況を確認している。記録物は全体的に記録量が多く、細やかで、誰が見ても分かりやすいよう色分けして記載し、法人で使用する様式を改善して事業所オリジナルの様式を使用している。利用者の暮らしの様子や支援内容を具体的に記入し、職員の気づきや工夫等は申し送りノートに個別に記録されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	生活記録用紙に記録し、介護計画にそって日々の支援を行っている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	生活記録に記録し、特に注意したい事等は、赤線青線、緑線、で分類し職員に申し送っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	生活記録とは別に、申し送りノートを作成し、記入し職員間で情報共有している。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	三か月に一度ケアカンファレンスを行っている状態変化がなければ六か月後に作成している。	/	/	/	3か月毎に見直しを実施している。利用者ごとの担当職員が中心となって、毎日の実施状況を確認したり、モニタリングの評価を通じて、現状確認を行っている。利用者の状態に変化が生じた場合、家族と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	全体会やユニット会で毎月、一人ひとり、利用者の変化等について話し合っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人や家族の要望を取り入れながら、介護計画の見直しをしている。また、状態変化が生じた場合も家族と連携をして適宜見直ししている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ユニット会で話し合い、相談している。緊急時はその都度行っている。	/	/	/	毎月、事業所と併設のデイサービスセンター合同の職員会議や、各ユニットでの会議を設けている。会議で話し合われた内容は、会議録や申し送りノートで確認し、共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	副主任が中心になり、若い職員や新しい職員も意見が言いやすい雰囲気を作っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	当日勤務の職員以外は、出席できるようにしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議で話し合った事を議事録や申し送りノートに記入している。コピーも渡している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートを活用し、出勤時には必ず目を通す様にしている。大事な事は赤線を引いている。	/	/	/	家族との連絡事項や相談内容も含め、議事録や申し送りノートを活用し、確実な申し送りができるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノート、ユニット会ノート、生活記録等に記入し、面会時に家族と連絡・相談した事等も職員全員に伝わるようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	日々の会話の中でその人の思いをくみ取っている。	/	/	/	本人の自己決定を尊重し、他の利用者とは少し離れ、一人の時間を過ごしたい利用者が廊下のソファでのんびり過ごしている場面もあり、その日の暮らし方を選択できるように努めている。利用者の好む話題の提供や声かけで、雰囲気盛り上げている様子が見られた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	衣服やパジャマをどちらがいいか選んでもらっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	思いや希望が、何でも話せる様な信頼関係が築けるように、寄り添っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	一人ひとりの様子を見ながら、職員中心にならないように、支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	本人が好きなことや、できそうな事を勧めたり、声かけし雰囲気作りをしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	利用者様が何かしたい時やしてもらいたいと感じられる時は行動に移している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	常に利用者様は、人生の先輩だという事を忘れず敬いの心を持って、職員全員、意識して声掛けしている。	◎	◎	◎	利用者は人生の先輩である、という敬いの精神が職員に浸透しており、声かけや対応に意識している様子が感じられ、家族や地域住民からも評価が得られている。排泄や入浴など羞恥心に配慮する場面では、他者に悟られないようにさりげなく誘導を促すなど、配慮ある対応が心がけられている。居室は利用者専用の場所である理解があり、入退室にはノックや了承を得るなどのマナーが身に付いており、居室が空室になっている場合には戸を閉め、プライバシーに配慮した支援に努めていた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	目立たず、さりげない言葉かけを心掛けている。トイレの声掛け等は小声で言うように心掛けている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	トイレや入浴時は必ず戸は閉めている。また入浴時に女性職員に交代したりと配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	シーツ交換時や入室時は必ず、声掛けした後に入室するようにしている。訪室する時は必ずノックしている。いない時は戸は閉めている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	利用者様の個人情報は外では話さない。主介護者以外には個人情報は話さない。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事仕事や洗濯物たみ等出来る事は協力してもらっている。また、してもらったり、教えてもらったりした場合は感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	興奮すると大きな声を出してしまう利用者や、物を放り投げて大きな音を立てたりする利用者もいるが、ベテラン職員が雰囲気を察知して早めに対応し、他利用者が不安を感じないように配慮していた。トラブルを未然に防ぎ、利用者同士が関わられるように、リビングでの配席に配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	人間は一人では生きていけない、助けあって支えあって生きていく事を理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	テーブルの座る位置等、利用者様が助け合って仲良く過ごせるように配慮している。孤立しがちな利用者様も、利用者様や職員が媒体になり、馴染めるよう配慮している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が仲介し、支援している、ソファーに並んで座り談話したり、隣席どおし協力し合い家事等をしていただいている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム丹原の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	利用者様や家族から情報収集しているがあまり根ほり葉ほり聞くことが出来ない事もある。昔の事を話したがる利用者様や家族もいる。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	利用者様や家族から情報収集しているがあまり根ほり葉ほり聞くことが出来ない事もある。昔の事を話したがる利用者様や家族もいる。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	車に乗って外出した際は、行き先を伝えながら話をし思いだしてもらおうよう努力している。デイサービスを利用されている方に会いに行ったり、逆に話しに來られたりもしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会時、お部屋にて、談笑していただくようにしている。来て下さった事に感謝し、また来ていただけるよう優しい声掛けを心掛けている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	天気の良い日は必ず、外気浴・日光浴をしている。元気な方はホーム近くを散歩している。時々、外出して、花や鯉、かわいい動物を見に行ったり、外食をしに行ったりしている。	○	○	○	毎日、事業所建物の外へ出て、敷地内を散歩したり、毎月1～2回は外出を予定している。重度の利用者についても、体調に無理のない範囲で、他の利用者と一緒に外へ出掛ける機会を持ったり、ユニット内の陽当たりの良い場所で過ごす時間を作っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の方の家にお邪魔させていただいて、花を見せていただいている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	ユニット間で協力し、車椅子の方も天気の良い日は外気浴・日光浴にでている。	/	/	◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族と外出する方はいるが、地域の方と出掛ける事はない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	ユニット会で話し合ったり、日々の申し送りで伝えたり、職員で検討し、寄り添いケアを行っている。	/	/	/	利用者のできることを把握し、見守りながら散歩や歩行訓練を行ったり、風船を使用したりリハビリテーション等を実施し、月1～2回、法人の理学療法士の訪問があり、専門家によるアドバイスを受けている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	廊下歩行や手足の体操を行っている。毎月一回理学療法士の指導の元リハビリ体操もやっている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来る事は極力自力でしていただいている。危ないと思った時は介助している。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	一人ひとりの、嗜好や趣味を把握し、楽しみを持って生活が出来るように支援している。	/	/	/	調理や洗濯などの家事的な作業の他、中庭で育てているトマトやスナックえんどうの世話を担当している利用者もおり、それぞれ興味のあることに取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	レベルが進んでも、個々に出来ることを、日常の会話やふれあいによって、職員が見つけだし、楽しみを持って生活していただいている。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の方の家に花を見せてもらいに行っている。役割出番はあまりない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自分で選んだ衣服やパジャマに着替えてもらっている。				食事中、職員がさりげなく食べこぼしをカバーしている様子が見られ、利用者のプライドに配慮しながら支援を行っている。訪問理美容サービスを利用している利用者が多く、好みのスタイルに整えられるよう支援している。重度な状態であっても、アセスメントで利用者の好みを把握しており、本人らしさへの支援につなげている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	個別にヘアブラシを用意している。自分で乳液をつけてお肌のケアをされている利用者様もいる。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	起床後には、一緒に鏡を見ながら髪型を整えたりその人らしくいられるように支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出に適した服装を、職員と一緒に談笑しながら相談している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	利用者様のプライドを大切にし、声に出す事なく、さりげなくカバーしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	ホームにてボランティア(有償)の方に理容していただいている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	毎日、本人らしさが保てるように、髪型や服装を綺麗にしている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	おいしく食べていただけるよう、食器や色取りにも配慮し、楽しい食事が出来る様にしている				利用者の重度化等により、一緒に食材の買い物に行くことは徐々に難しくなってきたが、盛り付け等できる作業を共に行っている。中庭で育てているトマトを収穫して食べる等、旬の新鮮な食材を取り入れるように努めている。献立は利用者の意見を聞きながら作成し、嗜好の好みやアレルギーの有無を入居時に把握している。自宅で使用していた食器類を持ち込んだり、誕生日に事業所からプレゼントされた食器を愛用する利用者もいて、自由に使用している。職員も利用者と同じ食卓を囲み、一緒に食べながら必要な介助を行い、食事のペース等の見守りを実施している。重度な状態であっても、調理の香りに誘われるようにリビングに集い、楽しみにしている様子が見られた。献立のバランスや偏りについて職員間で話し合いを行い、献立作りに反映している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物・献立・食材選びは職員がしている。野菜切りや下膳等はしていただいている。出来ない人も多くいる。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	自分のできる事をしていただく事で、利用者様の達成感に繋げている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	コーヒー等が嫌いな利用者様には、ミルク等を別の飲み物を用意している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	春夏秋冬、旬のものを取り入れ、季節感を味わっていただき、利用者様も喜ばれている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	◎	利用者様の状態や体調により、ミキサー食や刻み食にする事もあるが、献立によって、色とりどりの器や工夫して盛り付けたりしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	利用者様の使い慣れた茶わん、箸等を使用していただいている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者様と会話を楽しみながら、むせ込みのある人や食べこぼしのある人等にさりげなく、サポートしている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	リビングにて皆様と生活している事で、調理の匂いや音で、視覚・嗅覚に訴え、待ち遠しい素振りを見せられる利用者様もいる。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事量、栄養バランス、水分摂取量等しっかり確保できている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	一人ひとりに合った形態で援助し、時には、介助にて摂取していただいている。少ない方には、時間をおきながら、再々声掛けし励めている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	職員間で話し合いはその都度行っている。利用者様の事を考えて献立を立てている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手洗いの励行、まな板の消毒、食材の賞味期限の確認等に気をつけている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	利用者一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの介助を行っている。	/	/	/	口腔ケアのマニュアルを作成している。自分で歯磨きができる利用者には自分で行ってもらい、できない部分を介助している。歯磨き等の口腔ケアの実施後には、チェックを行って健康状態を把握している。義歯利用者は週2回の洗浄剤での洗浄を実施し、出血や義歯調整等の必要時には訪問歯科の受診支援を行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	虫歯、義歯の異常があれば、歯科受診している。舌や口腔内も口腔ケア時に確認している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診した時に義歯の洗浄の仕方についてやケアの仕方について教えていただいている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自力で出来る方は自分でしていただいている。週二回入れ歯洗浄剤にて洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	自力で出来る方は自分でしている。週二回入れ歯洗浄剤にて洗浄している。口腔ケア時に出血や炎症のチェックは職員がしている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	虫歯や義歯の不具合があれば歯科受診しているが認知の度合により不可能だと判断される事もある。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレでの排泄を常に促している。出来る限り、オムツや紙パンツ類の使用をせず、排泄ができるように支援している。	/	/	/	排泄の状況を記録して排泄パターンを確認し、トイレでの自然な排泄ができるよう支援している。排便コントロール等、併設デイサービスの看護師にいつでも相談できる環境にある。状況に応じた適切な排泄用品の使用についてユニット会等で話し合い、アセスメントに反映している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	廊下歩行や散歩・体操をし気分転換を心掛けている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を使用し、職員全員で排泄パターンを把握して支援できている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄パターンを把握している為、変化があれば、ユニット会で議題にあげ、検討・見直しを常に行っている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄チェック表で日々確認し、スタッフ間で情報を有して、その都度、看護師も交えて検討し対策を実施している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	個々のパターンに合わせて、必要な場合は声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	必ずユニット会で検討し、家族様に連絡し相談している。理解できる利用者様はご自分で選択できるように支援している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	通常は布パンツを使用し、外出時だけ紙パンツを使用する利用者様もいる。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	朝食時のヤクルトやバナナ等便通が良くなる食材を摂っている。食後のトイレ誘導、廊下歩行の運動にも取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	長湯しないように配慮したり、好みの温度調節をしている。体力的に毎日入れない方は、2~3日に1回の方もいる。	◎	/	◎	基本的には2日に一度のペースで入浴しているが、希望する利用者は毎日入浴が可能である。男性職員も多く、利用者の希望等に応じて、介助する職員が交代することもあり、柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	入浴されている時、昔話をしたり、談笑しながら入浴していただいている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来る限り、入浴動作の自立を促している。浴槽内へは、一部介助で安全に入らせていただいている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴時間帯や声掛けをするタイミングを工夫することで入浴できている。必要に応じて、男女スタッフ交代し羞恥心に配慮している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に必ずバイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、入浴の可否を見極めている。入浴後も水分補給等に注意している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	テレビを見てから入室される方もいるし個々の睡眠パターンを把握している。	/	/	/	夜眠れない利用者には無理強いすることなく、しばらく会話をしたり、精神的に落ち着けるよう支援に努めている。概ね利用者はよく眠れていると感じており、服薬などの医療面は医師に相談している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の活動量を増やしたり、居室での臥床時間を減らすように支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	レクリエーションに誘って、出来るだけリビングで過ごしていただき、外気浴もする、はちみつ入りホットミルクを飲んでいただく等出来るだけ薬剤に頼らない支援を心がけている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	自室や和室にて臥床し休んでもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	年賀状や暑中見舞い等のはがきのやり取りを職員と共に文面を考えたりしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状や暑中見舞い等のはがきのやり取りを職員と共に文面を考えたりしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	こちらから電話する事はほとんどないが、かかってくれば取次ぐ事もある。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	ご本人様に伝えたり、家族様に連絡したり、共有できるように支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	こちらから電話する事はほとんどないが、かかってくれば取次ぐ事もある。暑中見舞いや年賀状は職員と一緒に返事をかいたりしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクもあり家族もそれを望んでいる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクもあり家族もそれを望んでいる。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	外出行事は実施しているが、買い物等は実施していない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	外出行事は実施しているが、買い物等は実施していない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	家族様と相談の結果、現在はお金を所持していない。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	家族様と相談の結果、現在はお金を所持していない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	その都度本人様や家族様に相談しながら、本人様の意向に添った支援に努めている。	◎	/	○	働いている家族も多く、朝早い時間の来訪も自由に行えるよう面会時間を設定せず、24時間体制で気兼ねなく出入りできる環境を整備している。利用者や家族のニーズにはできるだけ沿えるよう努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関先や建物の周辺に春夏秋冬の季節の色とりどりの草花を育てたり、いつでも見に来ていただけるように開放している。	◎	◎	◎	玄関前の駐車場では地域住民も楽しみにしている豆腐の移動販売が行われ、販売日には賑やかな光景となる。広々とした事業所敷地には花々を育て、誰にも親しさが感じられる玄関回りを演出している。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	リビングの壁には季節の飾りを毎月飾っており、花を生けたり、廊下にはお誕生会や季節の行事の写真をはっている。居室には面会時のお孫さんやひ孫さんの写真を飾ったりしている。	○	◎	○	廊下に設置したソファや、畳の休憩スペースで、利用者が腰をかけてくつろぐ様子が見られた。利用者の生活風景が見られるよう写真を展示したり、利用者の作成した作品が飾られ、日常の様子を感じ取ることができる。今年で最期となった丹原七夕祭りへの作品準備に精を出しているところであった。環境委員が中心となり、客観的視点での環境整備に努め、カーペットやカーテンといった細部にまで配慮した清潔空間づくりに力を入れている。リビングでは利用者が好きな場所で自由に過ごしており、庭先に咲く花が生けられたりと、ほっと温か味ある空間となっていた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	空気清浄器、加湿器、消臭剤を使用している。居室にて仮眠時はカーテンをして、光防止している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	食材切り等出来る事を手伝ってもらったり、旬の野菜にふれたり、季節感のある食事メニュー作りやユニット内の装飾に努めている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席の配置や利用者様の様子を見ながらその都度工夫し対応している。廊下等にソファを置き一人で静かに過ごせる場所を作っている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	カーテンや引き戸を使用し、直接見えないようにプライバシーを守っている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅で使用していた家具を持ち込んでいただいたり家族からのものがきや写真を飾ったり、のんびり・穏やかに過ごしていただいている。	◎	/	○	使い慣れたたんす等の生活用品を自由に持ち込んでもらい、居心地よく利用してもらっている。居室は清潔で清掃が行き届き、すっきりとした印象が感じられる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	リビングには日めくりカレンダーを作り利用者様がめくれるようにしている。自室には表札を作っている。トイレや浴室も表示している。	/	/	○	居室入口には表札があり、トイレや浴室などの位置表示を工夫し、利用者が戸惑うことがないように配慮している。日めくりカレンダーを管理する利用者もいて、利用者の力を活かせる支援に努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	リビングには日めくりカレンダーを作り利用者様がめくれるようにしている。自室には表札を作っている。トイレや浴室も表示している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	テーブルの上やカウンターに季節の花を生けたり壁には季節の貼り絵等を毎月飾っている。読書が好きな方は園芸や好みの本、新聞をいつでも読めるように置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	職員全員、鍵をかける事の弊害を理解し、鍵をかけていない。退出の職員が退社後(21:20頃)から朝の早出の職員が出動するまでの間(6:45頃)は防犯の為施錠している。	◎	◎	◎	法人全体で鍵をかけないケアに取り組んでおり、正しい理解に努め、施錠はされていない。2階フロアのユニットでは、階段からの転落事故にも十分留意しており、職員の行き届いた配慮により事故等もない。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	二階からの転落防止の為、居室の窓のロックキーを掛けているがその他はしていない。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	日中はいつでも外へ出て散歩や庭に咲いた花等が見れるよう鍵はしていない。職員が目配り・気配りして注意している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	生活歴やアセスメント等を行い、カルテに閉じており、いつでも確認できるようにしている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	普段と違った様子やバイタル測定結果の時は生活記録に残している。記録に青線を引きわかりやすくしている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	施設長と24時間連絡が取れる体制である。西条市民病院と連携病院であり、相談できる関係を築いている。日中はデイの看護師に相談している。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるように支援している。	◎	家族が希望するかかりつけ医や医療機関で受診できるように支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	月一回連携病院の往診を受けている。かかりつけ医を継続される場合、ご家族が受診介助できない場合は職員がお連れしている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	ご家族様が同行する場合は結果を聞き次に繋げている。職員が同行する場合は受診前後に、家族様に連絡報告している。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	ホームでの状態や介護状態について、介護要約サマリーを作成し情報提供している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院の主治医や看護師、相談員と連携を密にし情報交換に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	当ホームの連携病院であり、普段から、往診等で顔なじみであり連携は取れている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	月に三回当ホームに西条市民病院の主治医の往診があり、事前に看護師に相談している。往診時主治医にも相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談できる体制にある。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談できる体制にある。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	個人のカルテを作成し服用している薬の説明文を挟んで職員全員に周知している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服用時職員二人でダブルチェックしている。服薬後も飲み忘れがないか薬箱のチェックもしている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	朝・昼のバイタル測定や日常の様子観察をしている。いつもと様子が違うと連携病院の看護師に相談し受診する場合もある。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	日々の状態変化に注意している。変化があれば家族、主治医、看護師に相談する体制は整っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし相談検討し、その時その時で最善の方針を共有している。	/	/	/	利用者や家族の希望を把握し、重度化が進んでも事業所でできる限りの介護を行い、これまでに20名以上の利用者を看取ってきた。看取りの経験がある職員も多く、医療機関や家族とその時々々の状況において方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし相談検討し、その時その時で最善の方針を共有している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者、職員交えて全体会等でどこまで支援ができるか話しあっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	出来ること、出来ない事については、その時その時で説明し理解していただいている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	利用者がより良く暮らせる為に連携病院の主治医等と連携して支援していく体制にしている。当ホームでの生活が難しいようであれば、連携して住み替えの提案も相談の上していく。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の意向は聞くようにしている。利用料の支払いが苦しい家族は出来る限り、期限考慮している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会等で看護師より、シーズン前に定期的に学んでいるが、肝炎、MRSAは学べてない。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	毎年勉強会で繰り返し手順を確認し、発生した時にすみやかに処理できるように、道具一式を揃えている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	市報、グループ内の市民病院の患者発生状況、インターネットを通じて最新情報を入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	インフルエンザ警報が出たり、流行している時は面会を控えてもらっている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時、外出時、外気浴時、は必ず手洗い、緑茶うがいをしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時等に日頃あったエピソード等をお伝えしている。	/	/	/	家族の来訪の機会は多く、家族会をはじめ事業所での行事への参加も積極的だと実感している。利用者の日常の生活の様子は、毎月「日常生活報告書」としてまとめ、担当職員が細やかなコメントを付けて送っているため、来訪の機会が少ない家族にも理解しやすい。職員の異動もあるが、新聞の発行で伝えたり、運営推進会議の機会を活用して家族に運営上の事柄を報告している。家族がいつでも意見や要望を伝えることができるよう、電話連絡や来訪時の声かけで良好な関係づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会時は居室案内し、必ずお茶やコーヒーをお出し、ゆっくりと談話していただいている。また来ていただける様、優しい声掛けを心がけている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	お花見、クリスマス会には案内状を出し、出席していただき、利用者様と共に楽しませている。普段の面会時も外気浴と一緒にベンチに座っている。	◎	/	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	「あたご通信」という新聞を年7回発行しており、行事に参加した様子等を伝えている。また、月1回日常生活報告書を書き日常の様子、体調等について報告している。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	面会時や電話での会話で家族が感じていることを理解し報告している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	面会時の前後等に家族様と話し、認知症への理解を得られるようにしている。出来ていた事が難しくなった事等も逐一報告している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	二カ月に一度の運営推進委員会議にて、報告理解や協力を得られるようにしている。	◎	/	◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議や家族会、お花見・クリスマス会等の案内をしている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて説明している。夜勤帯は一人体制の為、転倒等のリスクがある事を説明し同意を得ている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会時や電話での会話等、明るく感じの良い話し方を心がけている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居時に契約内容、締結、解約について、重要事項説明書にて具体的に説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	状態の変化等により、退居になる場合は連携病院の主治医や看護師、相談員と連携し、家族様と相談し納得していただいている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居時や料金改定時は内訳を文書で示し、料金の設定理由を説明している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅲ.地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	二カ月に一回の運営推進会議において、民生員や老人クラブ会長、自治会長等に説明している。	/	◎	/	地域の丹原七夕祭りへは毎年参加している他、事業所駐車場での豆腐の移動販売や、庭の花が見ごろになると、地域住民が気軽に立ち寄ってくれており、良好な付き合いができています。これまで参加を楽しみにしていた丹原七夕祭りは残念ながら今年で終了となるが、今後他のイベント等への積極的な参加を期待したい。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	丹原商店街の七夕祭りに七夕飾りを毎年出品して参加している。また、地域の方の庭に咲いている紫陽花等を見学させてもらっている。	/	◎	◎		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	グループホームの存在意義が浸透してきており、暖かく挨拶や声掛けをしてくれている。	/	/	/		/
		d	地域の人々が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	◎	庭に咲いたバラの花を見に来て下さったり関連施設の訪問販売を楽しみにされてる方も多い。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	庭に咲いたバラの花を見に来て下さったり、関連施設の訪問販売を楽しみにされてる方も多い。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	併設のデイサービスで、月2～3回ボランティアの方による歌謡ショー、日本舞踊、楽器演奏等のショーに参加している。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	初詣には近隣の神社仏閣にて参拝させていただいている。市民の憩いの場へ季節の色とりどりの花を見学にいっている。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	地域の七夕祭りに七夕飾りを出品したり、西条西消防署には年2回心肺蘇生法講習やAED取扱い講習、火災・地震対策予防の講習に来ていただいている。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	毎回、利用者様、ご家族様、市職員、民生委員、生活相談員、老人クラブ会長等に参加していただいている。	○	/	◎	運営推進会議は、家族や地域住民の参加協力を得て開催している。利用者やサービスの実際、評価への取組み状況について報告したり、季節に応じた話題や勉強会など議題を工夫して開催しているが、管理者は会議がマンネリ化していると感じ、これまでと違った議題の提案をしたいと考えている。写真やDVDなども活用して、事業所の様子を分かりやすく伝える工夫があり、参加者から意見をもらっている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	◎	外部評価後は資料を作成し、運営推進会議にて報告している。	/	/	◎		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	出席者からの意見や提案を日々のサービス向上に生かし報告している。年2回の火災避難訓練とは別に水害を想定し1階から2階への避難を実施した。	/	◎	○		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	時間については、出席者が都合がよい16時30分からにしている。	/	/	◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	運営推進会議後は西条市高齢介護課にファックスで送付している。家族にも公表している。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	グループホーム丹原の郷運営理念を作成し、職員に周知し、理念に基づいたケアに取り組んでいる。館内に運営理念を貼り職員全員、共通認識している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	二カ月に一度の運営推進会議にて理念を伝えている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	新しい職員や若い職員に施設内外の研修を受けてもらっている。研修後は勉強会やユニット会にて発表してもらい職員全員に周知している。	/	/	/	代表者は、職員が働きやすい環境作りに努めている。法人内でのレクリエーションや懇親会等の活動を通じて、横のつながりも持つことができ、研修等の学びの機会も多く、働きながらスキルアップできる仕組みがあり、有効に活用できている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで、料理、入浴介助、夜勤の順で教育しスキルアップできるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	今年度より、夜勤手当・運出手当の増もあり、条件向上に努めている。夜勤や運出を積極的にしてくれる職員も増えた。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	地域密着型サービス協会総会研修会等に管理者が参加したり、介護リーダー実践者研修に参加、その他、在宅介護研修センターでの研修に参加し職員の意識を向上させている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	様々なスポーツ行事や懇親会、忘年会等を企画し職員のストレス軽減に努めている。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	施設内での勉強会や外部の研修会等に参加し勉強している。また文献やインターネットで検索し理解している。	/	/	/	勉強会の開催や、外部研修への参加を通じ、不適切なケアはしないという意識が根付いている。疑問を感じる対応がある場合、申し送り時に話し合いを行っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	朝・夕2回申し送りをしており日々の体調やケアについて話し合い振り返っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	ユニット内に止まらず、朝・夕の申し送りで報告し職員で情報を共有している。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	全社的に、パワハラやセクハラ調査を実施し、日常的に注意を払い、点検している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎月の全体会、ユニット会で話しあっている。勉強会で身体拘束についての勉強も理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月の全体会、ユニット会で話しあっている。勉強会で身体拘束についての勉強も理解している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	現在ではそのような要望は無いが、今後要望があっても、弊害について説明し、家族様と話し合いを重ねながら理解を図っていく。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修に参加し、勉強会を開催し理解を深めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	そのような相談は無いが、文献やインターネット等で研鑽している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	現在一名のご利用者様が保佐人二人付いており月一回面会に来て下さっている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し職員に周知しているが、新しい職員はまだ全部把握し切れてない。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	心肺蘇生法、AED取扱い講習を消防署来訪により受けている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリ・ハット報告書を作成し、その都度検討し、再発防止に努めている。申し送りもしている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	副主任が中心になり、安全対策委員会を設けて検討している。全体会でも職員に報告し意見を求めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	管理者とは24時間連絡が取れる体制にあり、連絡があれば迅速に対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	家族様からの要望等があれば管理者に報告相談し対応している。転倒し入院等になれば迅速に市の高齢介護課に文書で報告もしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情等があれば管理者が職員と話し合いながら家族と話し合いを重ねている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	月一回、介護相談員が来所して話をしたり運営推進会議にて意見を求めている。	/	/	○	利用者には毎日の生活の中で要望を伺っている。また、家族が要望等を話しやすいように雰囲気配慮しているが、さらに細かな希望・意見の把握のため、事業所ではアンケートを検討中であり、実施により運営に活かしていきたいことを期待したい。職員からの相談や要望があれば、各ユニットの主任・副主任や管理者を通して法人本部へ働きかける体制が整備され、管理者との面談を半年ごと実施している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	面会時に話しやすい雰囲気を作ったり、運営推進会議や家族会への出席依頼をしている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族からの問い合わせがあれば管理者を通して適宜行っている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	毎朝各ユニットに利用者様に挨拶廻りしておりその際職員の意見や要望を聞いている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	年に二回面接を行っている。その他にも普段から職員の話しを聞く機会を持っており、利用者様の為にどうすべきかを話しあっている。	/	/	◎	

愛媛県グループホーム丹原の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員一人ひとりが、半年に一回目標設定シートを作成して自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	運営推進会議や家族への毎月の連絡時に、サービス評価の取組みについて報告しているが、今後はさらに取組みのモニターとしての協力を得て、協働しながらより良い運営を目指して欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価について、全体会、ユニット会で、課題を話して学習の機会としている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	外部評価の後、目標達成計画を作成し、全体会、ユニット会で職員に周知し取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議で目標達成計画を会議で報告し今後の取り組みを説明している。また意見や要望も言ってもらっている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	運営推進会議にて報告し、事業所全体で取り組んでいる。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	ジェイコムグループで様々な災害対策マニュアルを作成し、職員に周知している。	/	/	/	食料品や飲料等の備蓄を備えたり、様々な災害を想定した訓練の実施や災害対策マニュアルを整備し、法人をあげて積極的に取り組んでいる。運営推進会議で議題として取り上げたり、毎月のお知らせと共に情報を発信しているが、家族は不安を感じている状況である。災害訓練への家族参加や話し合いの場を設けることで、共に協力し合う支援体制の確保に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間を想定した訓練は実施しているが、二人体制、一人体制での訓練は実施出来ていない。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	パンや水等を定期的に点検、交換している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	半年に一回の火災避難訓練の実施、その後の消火器取扱い講習、年一回心肺蘇生法、AED講習火災等の災害時講習等をうけている。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	当ホームの訓練はしているが、地域の訓練には参加できていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	広報誌「あたご」を発行しているが、地域に向けては現在できていない。	/	/	/	高齢化が進む地域であり、事業所が地域活動の拠点となる期待感も大きい。現在、定着しつつある事業所駐車場での豆腐の移動販売など、地域の方が気軽に集まる機会を今後の活動のきっかけとし、相談支援の窓口・地域のケア拠点としての活動が広がることに期待したい。市や関係機関との連携は良好なものである。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	地域の方の見学や相談を受けている。またその情報をグループ内で共有している。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	バラの咲く季節には掲示板に「バラが咲きました。」と写真を掲示し地域の方が見に来ている。また、訪問販売の豆腐を購入してくれている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	地元の中学生の体験研修を受け入れている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	丹原商店街での七夕祭りに、七夕飾りを、ご利用者様、職員で作成し、出展している。	/	/	○	